

平成29年度 第4回 池田市総合教育会議 議事録

日 時：平成30年2月13日（火）午後4時00分～午後4時30分

会 場：池田市役所 3階 秘書課内第3応接室

出席者：倉田市長、田淵教育長、山岸委員、河野委員、小林委員、木村委員
＜事務局＞

15人

傍聴者：0人

1. 開会の挨拶

＜市 長＞

- ・平成29年度第4回目の総合教育会議になる。全国の中でも本市でのこの会議の開催回数が多い方であると考えており、今回の予算編成に当たっては、20,000千円の枠で教育委員の先生方から予算提案をいただいている等、大変中身のある会議であると感じている。
- ・平成31年度も「教育日本一」予算枠をとりたいと考えているので、本年度に引き続き、教育委員の先生方にも予算に対するご提案をいただきたい。
- ・国の方でも、指導要領が一部改訂となり、子どもたちは今後ますます主体的で多様な答えのない深い問題に取り組んでいくことになる。
- ・教育は、先生が教える人で、子どもたちは教えられる人であるため、ICT教育や英語教育のために専門家を派遣するといった、教えられる側に対し教える人を派遣する、という上から目線などところがありがちと、外部の方に言われたことがある。
- ・また、平成26・27年採用職員に対する研修の場で、「教育日本一」に係る市民への説明の仕方について質問を受けたので、具体的な取り組みを5つ程説明ができるようにすれば、問いかけにも応じられるはずと答えた。
- ・教育政策を推し進めようとする、どうしてもこのような投げかけを頂くものであるが、是非「教育日本一」をめざして取り組んでまいりたい。
- ・その教育日本一をめざした取り組みを行っていくに当たり、本日はその平成30年度予算の概要を申し上げる。

2. 議事

・平成30年度教育日本一予算について

○事務局から説明。

- ・資料は、平成27年度予算に比べ160,000千円上積みいただいた予算枠としての事業の一覧である。
- ・前回会議では6つの事業に整理していたが、その後、特別職査定、教育方針等の作成を経て、次年度の取り組みの柱として、①英語教育推進事業、②幼児教育サポート事業、③ICT教育推進事業の3本立てとした。そして、特色づくり推進事業、いじめ不登校等トータルサポート事業を加えて、全体で5つの事業に整理し直している。
- ・「英語教育推進事業」では、教育委員の先生方の提案である、小学校英語の教科化に伴う英語専科教員の配置を考えている。当初は、3つの小学校をパイロット校に指定した取り組みを

考えていたが、5つの各学園の小学校に配置していく予定である。

- ・OST（オンライン英会話トレーニング）は、現在ほそごう学園のみで実施しているが、全中学校での実施、拡充を考えている。
- ・はばたきイングリッシュでは、英語漬け宿泊行事「小学生イングリッシュキャンプ」を実施する等の拡充を考えている。
- ・平成29年度から始めた「英語4技能測定テストGTEC」も引き続き実施し、英語を使える池田の子どもの育成をめざしていく。
- ・「幼児教育サポート事業」では、新規として3つの事業を考えている。
- ・1つ目の幼児教育サポートチーム設置では、幼児教育サポートチームを教育委員会内に設置し、保育士や教員、保護者を対象とした研修会を含め、市内の公私立幼稚園、保育所、家庭、関係機関と連携し、幼児教育の支援体制を整備していく。
- ・2つ目の幼児の知力・体力向上では、3歳児から5歳児までを対象とした体操やリトミックなどの公設民営教室に加えて、知的な体験や学習を取り入れるなど、安心して小学校に入学できる仕組みづくりを考えている。
- ・3つ目の幼稚園 ICT 整備では、幼稚園へ教育用コンピュータを導入することで、幼稚園の教職員の業務の効率化をめざす。
- ・「ICT 教育推進事業」では、平成32年度から小学校でプログラミング教育が必修化されることに伴い、「人型ロボット Pepper」の更なる有効活用を図るため、プログラミング教育に精通した指導員を学校に派遣するとともに、授業の指導を事業者へ委託し、有効に情報機器を使いこなす教職員や子どもたちの育成をめざす。
- ・指導者派遣事業については、これまでも学校からニーズがあったところ。
- ・今年度新規に配置した65型の電子黒板については、今年度以前に旧型が配置されていた石橋小学校や細郷小学校にも配置する予定である。
- ・「特色づくり推進事業」では、ほそごう学園の区域外から特認校制度を活用して通学する子どもたちの通学定期代の半額を補助する事業や教育日本一を周知するための冊子を作成する事業を新規で考えている。また、進級の援助に資するための文具類の配布や元プロ野球選手にスポーツ指導を委託する市民スポーツ振興事業といった拡充事業も考えている。
- ・平成30年度の事業提案については、拡充と新規を合わせて、161,606千円となっており、増額分の合計額は59,984千円となっているところ。

<委員>

- ・教育委員提案枠に20,000千円いただき、英語教育に力を入れていこうということで、英語専科教員の配置も5つの学園への配置となった。今後、東京オリンピックが控えており、最近では、池田のまちも外国の方が多く見受けられるようになり、子どもたちにもっと英語に興味を持っていただきたいので、そういう環境にあることは重要かと思う。

<委員>

- ・英語教育は大事だと思うが、とりわけ言語の習得に関しては、英語も日本語もどちらも大事なことと考えている。
- ・言語の中にいろいろな文化の特徴が含まれており、言語の習得は、社会的な学習であると思

う。また、社会的な学習により、人格が形成されるとも考えている。

- ・国語を学ぶことは文化を学ぶことでもあり、英語の表現力の向上にもつながるのではないかなと思うので、細かいところも見逃さないように気をつけていただきたい。

<委員>

- ・英語専科教員の配置について、前回平等性についてお伝えしていたところも反映していただき、嬉しく思う。
- ・英語教育について、日本は大変恵まれた環境であるが、留学援助があっても行く人が少ないといった悲しい現状もある。アジアの学生は英語が上手であり、英語教育について話を聞いたところ、少し詳しく勉強しようと思うと、自国語の教科書がなく、英語の教科書になるので、上をめざそうと思えば自動的に英語が組み込まれることになるということであった。日本は恵まれているがゆえに、英語に重点的に取り組んでいかないと、ますますグローバル化から遅れていくのではないかと感じているので、今回英語に重点を置いた取り組みを行っていただけて良かったと思う。

<委員>

- ・小学校入学時のスタートダッシュが大事だと考えている。小学校入学時にどの程度できるようになっているかで変わってくると思う。
- ・英語も昔は中学生から始めていたが、その時にある程度基礎ができていると授業についていきやすく、またできれば好きになる。やはり英語も小学校から早く始めるというのは大事だと思う。
- ・幼児教育も重要視していかなければならないと思う。小学校1年生に入った段階で、読み書きができるなど基礎ができていると勉強が好きになってくると思うので、そういった子どもたちを幼稚園の年代の頃から育てていくと、アドバンテージが維持され、大きくなっても能力に差がついたまま残っていくのではないかと考える。英語教育と幼児教育に重点を置いていただけて良かったと思う。

<教育長>

- ・平成28年度と平成29年度について市長特命予算を組んでいただいて、教育日本一をめざした事業に取り組んできた。
- ・平成30年度の大きな柱は、英語教育推進事業、幼児教育サポート事業、ICT教育推進事業の3つである。
- ・幼児教育サポート事業については、公立の幼稚園のみならず、保育所、こども園、私立とも連携し、公立小学校との接続もスムーズにしていきたい。
- ・ICT教育推進事業については、Pepperの発表会が一昨日行われたが、導入されているPepperの更なる有効活用を視野に入れつつ、電子黒板については、石橋小学校やほそごう学園へも充実させていきたいと考えている。
- ・指導者派遣事業やふくまるはばたき塾は非常に成果を上げているので、継続、充実させていきたい。

<市 長>

- ・教育委員の先生方にもご協力いただいているので、子どもたちに成果が表れてくるだろうと思う。
- ・平成30年度で一度検証しようかという教育委員会事務局案もあったが、平成31年度くらいに検証し、どう乗り切っていくのかというのが1つの節目になるだろうと考えている。
- ・気持ちとしては、来年度も50,000千円の予算をつけ、平成27年度比で2億円の予算を投入するつもりであり、どのような成果が表れるか楽しみなところである。特に英語教育については、成果が出るだろうと期待している。
- ・八木選手は、PTA 講演会や教育委員会の幅広い事業の中で活用し、子どもたちや保護者に還元できるような活用をしていただきたい。

<委 員>

- ・平成31年度どうするか知恵を出し合って、良い提案ができるように今からでも準備していきたい。

3. 閉会